

北九州市公営競技事業経営戦略

【後期計画（令和6年度～10年度）】【案】



北九州市
小倉けいりん



 **BOAT RACE** 若松



令和6年3月策定
北九州市公営競技局

目次

第1章 経営戦略の策定	1
第2章 経営の方針	2
1 企業理念	
2 目指すべき将来像	
3 前期計画期間の経営状況	
4 前期目標の達成状況	
第3章 現状と課題	4
1 全国的な売上額・入場者の状況	
2 本市競輪事業（小倉競輪）	
3 本市ボートレース事業（ボートレース若松）	
4 本市の一般会計へ繰り出した金額	
5 企業債の残高	
6 競輪競艇整備基金の残高	
7 前期計画（令和元年度～令和5年度）期間の実施状況	
8 現状を踏まえた課題と目指すべき将来像の方向性	
第4章 後期目標	22
1 後期目標の基本的な考え方	
2 後期計画期間の発売予測	
3 後期目標	
第5章 後期計画～競輪事業～	24
第6章 後期計画～ボートレース事業～	28
第7章 後期計画の指標・長期収支	31
第8章 資産の活用	37
第9章 第2期北九州市公営競技事業経営戦略	38

第1章 経営戦略の策定

1 策定の趣旨

本市では、自転車競技法、モーターボート競走法に基づき、本市財政に寄与すること等を目的として、競輪、ボートレース事業を実施しています。

昭和38年の本市発足以降、両事業の収益金から約1,782億円を一般会計へ繰り出し、市民生活の充実・利便性の向上等に寄与してきました。平成30年12月からの若戸大橋・若戸トンネルの無料化の早期実現にもボートレース事業の収益金が活用されました。

こうした中、収益事業にふさわしい経営形態へ移行し、更なる経営強化を図るため、平成30年4月1日、競輪、ボートレース事業に地方公営企業法の全部を適用し、公営競技局を新設しました。

この経営戦略は、地方公営企業として、中長期的な視野も踏まえた経営を行うっていくために、「企業理念」と「目指すべき将来像」を明確にし、令和元年度から10年間の取組方針や財政計画を示すため、策定するものです。本戦略に基づく経営のもと、安定的かつ継続的に収益を確保し、地方財政への貢献という公営競技の使命を果たしていきます。

2 経営戦略の位置付け

この経営戦略は、総務省通知（平成26年8月29日付）「公営企業の経営に当たっての留意事項について」において、中長期的な経営の基本計画として策定することが求められている「経営戦略」として位置付けています。

3 計画期間

令和元年度から令和10年度までの10年間とします。

なお、社会経済情勢の変化に対応するため、前期5年間、後期5年間の2期に分けて設定することとし、本冊子では、令和6年度から令和10年度までの後期5年間を対象とした内容を記載しています。

また、前期5年間における新型コロナウイルス感染症の拡大のように、社会経済情勢の大幅な変化などがあった場合は、目標や取組内容の見直しを行うものとしします。

4 進捗管理・事後検証

前期、後期それぞれで目標・計画を設定し、毎年度進捗管理を行うとともに、達成状況の検証・評価を行った上で、次期経営戦略に反映させます。

第2章 経営の方針

1 企業理念

小倉競輪・ボートレース若松は、事業の収益金で、将来にわたり北九州市の未来づくりと豊かな社会づくりに貢献していきます。

北九州市公営競技事業の目的を明確化するものです。この企業理念のもと、北九州市公営競技局の職員が一丸となって、競輪・ボートレース事業に取り組みます。

2 目指すべき将来像

「企業理念」の実現に向けて、経営の基本となる「売上」、「運営・財務」、「地域・社会貢献」の3つを柱とした「目指すべき将来像」を掲げます。

将来像Ⅰ 選ばれるレース場〔売上〕

本市財政への貢献に必要な売上を確保するためには、小倉競輪・ボートレース若松に足を運んでもらうのはもちろんのこと、全国のファンに車券・舟券を買ってもらうこと、他の施行者等に小倉競輪・ボートレース若松のレースを発売してもらうこと、中央団体から高いグレードレースの開催場に選ばれることなどが重要になります。そのため、「選ばれる」をキーワードとして、両事業に取り組みます。

将来像Ⅱ 健全な運営・信頼されるレース場〔運営・財務〕

地方公営企業化は、厳しい経営環境の中にあっても、本市の収益事業としての責務を果たし、安定的かつ継続的に収益を上げることを目指すものです。そのため、「健全」・「信頼」をキーワードとして、業務運営、財務運営を行います。

将来像Ⅲ 親しまれるレース場〔地域・社会貢献〕

将来にわたり競輪・ボートレース事業を持続させ、企業理念を実現するためには、事業のイメージアップと市民理解の促進が不可欠となります。そのため、「親しまれる」をキーワードとして、社会貢献につながる事業であることを積極的に発信するとともに、レース目的以外でも気軽に来場し楽しめる場所にします。

3 前期計画期間の経営状況

令和元年度末頃からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、いわゆる「巣ごもり需要」などにより電話投票を中心に競輪事業、ボートレース事業ともに発売額が拡大し、競輪事業は平成13年度以来の車券発売額水準、ボートレース事業は過去最高水準の舟券発売額を記録しました。

この発売額増加により、令和4年度決算における利益剰余金（利益処分後）は、競輪事業で50億円、ボートレース事業で273億円となりました。特に、ボートレース事業においては令和4年度までの4年間で141億円を一般会計へ繰り出すなど、好調な経営を維持しています。

(単位：百万円)

		R1	R2	R3	R4	
競輪	収益的収支	車券発売金	29,175	34,564	37,081	39,859
		収支差引(収益金)	578	1,197	1,446	1,310
	資本的収支	一般会計繰出金	0	0	0	0
		利益剰余金	利益剰余金(利益処分後)	1,221	2,393	3,756
ボートレース	収益的収支	舟券発売金	76,768	107,243	138,341	129,758
		収支差引(収益金)	4,869	9,789	13,617	12,203
	資本的収支	一般会計繰出金	1,500	2,600	5,000	5,000
		利益剰余金	利益剰余金(利益処分後)	4,418	11,574	20,161

4 前期目標の達成状況

発売額の増加に伴う収益金の大幅な増加を受けて、前期目標を令和3年度中に達成する見込みとなったため、当初設定した目標を上方修正しました。

当初目標			改定後目標		
収益金	競輪事業	8億円以上	競輪事業	40億円以上	400億円以上
	ボートレース事業	75億円以上		ボートレース事業	
一般会計繰出金		60億円以上	一般会計繰出金		170億円以上

目標改定後も順調な経営を継続しており、収益金は競輪事業・ボートレース事業とも令和4年度までに目標を達成しました。また、一般会計繰出金についても、令和5年度に50億円を繰り出し、目標を達成しました。

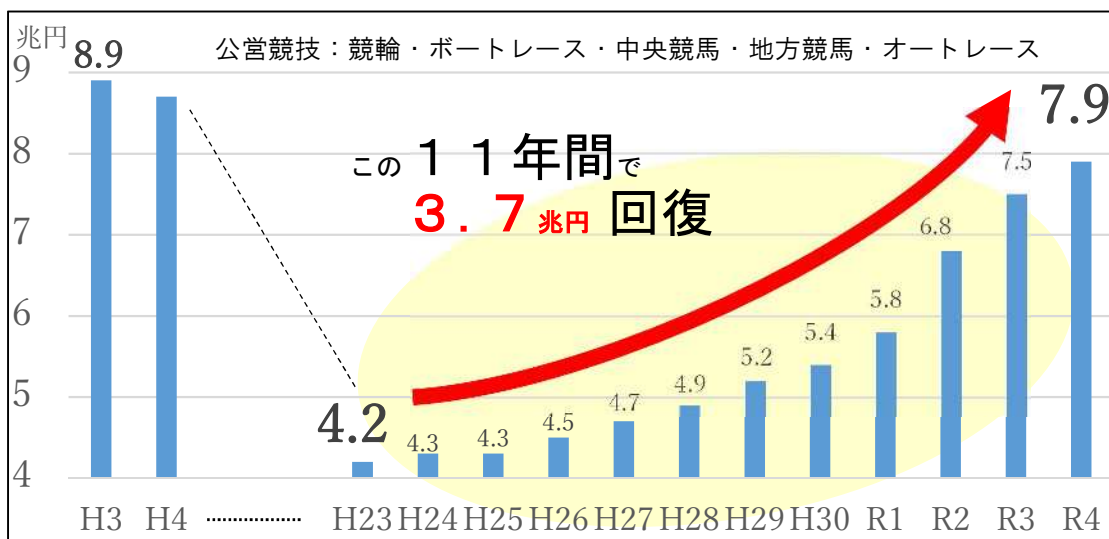
		改定後目標	令和4年度までの累計	達成率
収益金	競輪事業	40億円以上	45.3億円	113%
	ボートレース事業	400億円以上	404.8億円	101%
一般会計繰出金		170億円以上	141.0億円 (191.0億円)	83% (112%)

() 内は令和5年度までの累計・達成率

第3章 現状と課題

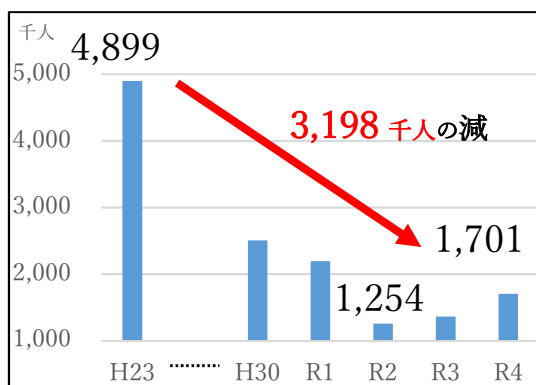
1 全国的な売上額・入場者の状況

公営競技全体の売上額は、平成3年度をピークに減少していましたが、各業界の経営努力等もあり、平成24年度から増加傾向に転じ、特に令和2年度以降、大幅に増加し、11年間で約3.7兆円、ピーク時の約90%まで回復しました。このうち、大きな伸びを見せたのはインターネットを利用した電話投票です。一方で、入場者については電話投票での購入割合の増加等に伴い逡減していましたが、令和2年度には新型コロナウイルス感染症の影響で、特に大きな落ち込みを見せました。



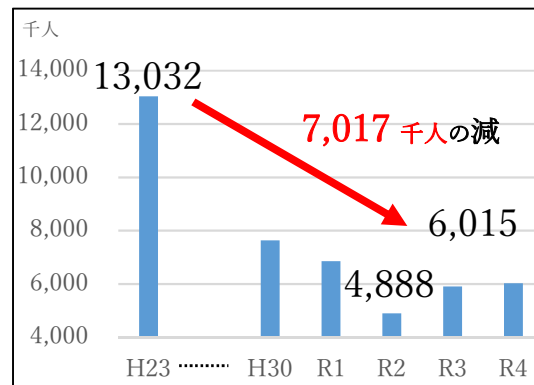
競輪 (全国)

〈入場者の推移〉



ボートレース (全国)

〈入場者の推移〉



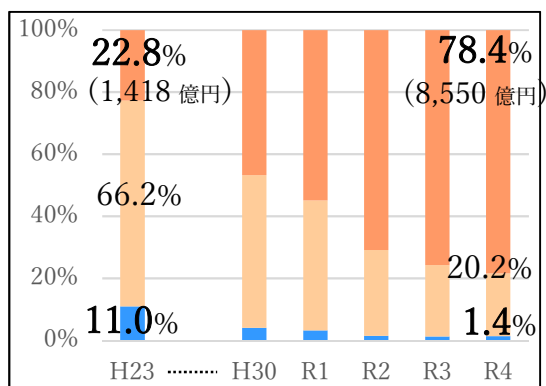


競輪（全国）

〈売上額の推移〉



〈購入形態別推移〉



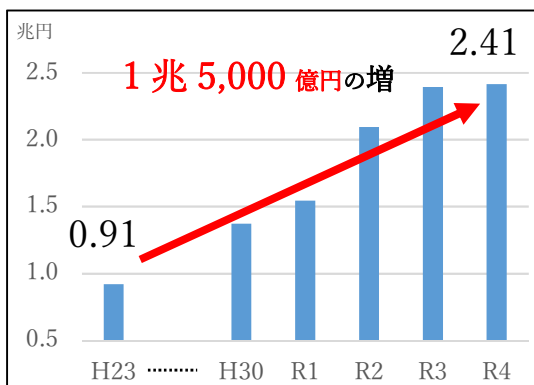
※競輪の購入形態別推移について、平成29年度から集計方法が変更（民間ポータルの上金額が「場外」から「電話投票」へ）されている。

■本場¹ ■場外² ■電話投票³

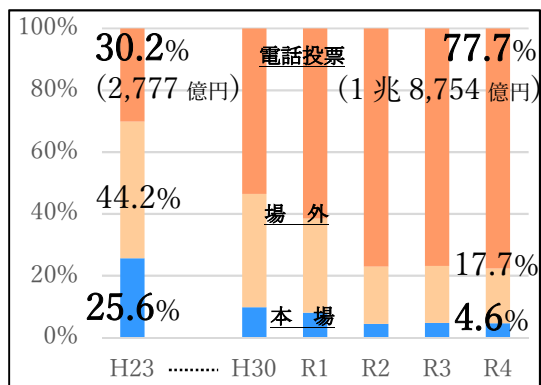


ボートレース（全国）

〈売上額の推移〉



〈購入形態別推移〉



本市が施行する競輪、ボートレースの状況は、両事業ともに売上額は増加しており、特にボートレースの売上額に大きな伸びが見られます。さらに、購入形態別推移では、両事業ともに本場売上額の割合が減少する一方で、電話投票の売上額の割合が伸びており、全国的な傾向と同様の動きとなっています。こうした傾向を踏まえ、今後の取組を検討する必要があります。

¹ レースが実際に行われているレース場における車券・舟券の購入。

² 本場以外の他のレース場や場外発売施設等における車券・舟券の購入。

³ スマートフォンや携帯電話、パソコンを使った車券・舟券の購入。

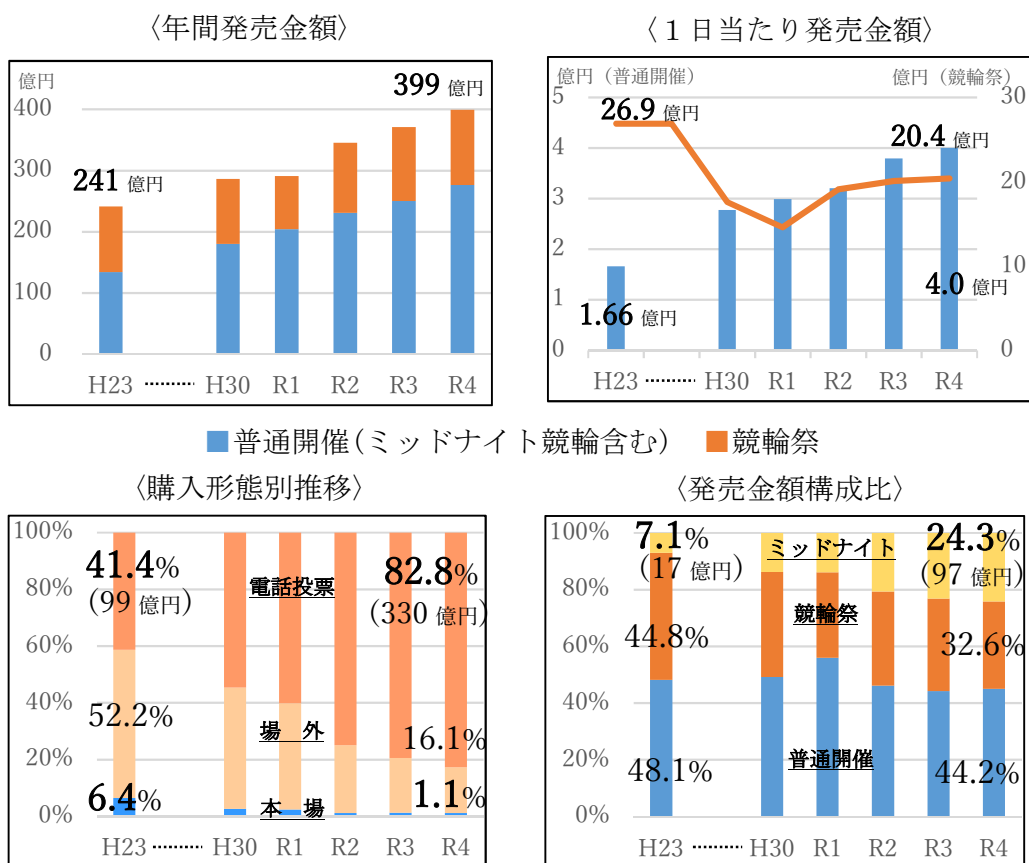
2 本市競輪事業（小倉競輪）

（1）現況

競輪発祥の地として、毎年、競輪祭⁴（G I）を開催しています。北九州メディアドームという屋内施設の利点を生かし、平成12年度からナイターレース⁵を実施し、平成23年1月からは全国の競輪場に先駆けミッドナイト競輪⁶を導入するなど、収益改善に取り組んできました。また、平成18年度から競輪実施事務の包括委託⁷を行い、開催経費削減に努めています。

平成30年度には、全国的にGグレードレース⁸の売上額の減少傾向が続く中、競輪祭をG I初の昼間4日制からナイター6日制の開催に変更し、令和5年度には競輪祭に合わせ、新設G I競輪祭女子王座戦⁹を開催するなど、競輪事業全体の活性化に向けた取組を進めています。

（2）発売金額（平成23年度～令和4年度）



⁴ 競輪発祥を記念して開催するG Iレース。

⁵ 15時頃から21時までの時間帯に行うレース。

⁶ 21時頃から23時過ぎの時間帯に行うレース。無観客で開催。車券は電話投票で購入。

⁷ 受託した民間事業者が効率的・効果的に運営できるように、複数の業務を包括的に委託すること。

⁸ GP・G I・G II・G IIIのグレードに格付けをされるレースで、S級上位選手が出場するもの。

⁹ ガールズケイリンにおいて、選考期間における決勝競走1～3位の回数上位者28名を選抜し、トーナメントを実施。

令和4年度には、年間発売額が399億円となり、小倉競輪の過去最高の発売(430億円)を記録した平成9年度に迫る発売額となりました。また、発売金額構成比では普通開催¹⁰のうち、特にミッドナイト競輪が増加傾向にあります。購入形態別推移では、全国の状況と同様、電話投票の割合が増加し、本場の割合が減少する傾向となっています。

(3) Gグレードレース(競輪祭・GI)

GIレースは、主に昼間の時間帯(10時～17時)に開催されてきました。競輪祭も、平成29年度までは昼間の4日制でしたが、平成30年度からGI初のナイター6日制に変更しました。令和5年度には、平成20年度以来となる130億円を超える売上を記録しました。

■直近の売上実績

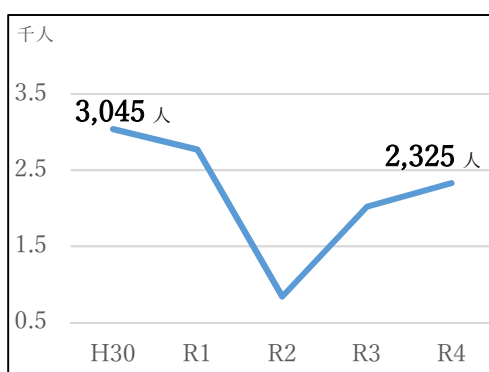
(単位：億円)

H20	～	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
138	～	82	86	106	88	115	121	122	130

(4) 入場者数(1日当たり)

本場の1日当たりの入場者数は、元々の減少傾向に加え、新型コロナウイルス感染症拡大による無観客レースや入場制限の実施等の影響で、競輪祭、普通開催ともに一段と減少し、新型コロナウイルス感染症拡大前までは戻っていません。

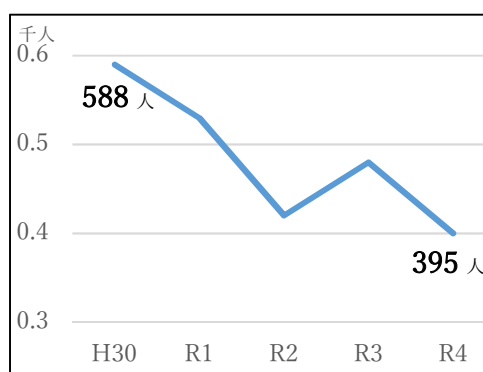
〈競輪祭〉



【開催期間中の入場者数】

H30 : 18,269人 R1 : 16,629人 R2 : 5,061人
R3 : 12,141人 R4 : 13,949人

〈普通開催〉



【年間の入場者数】

H30 : 25,301人 R1 : 23,797人 R2 : 19,968人
R3 : 21,754人 R4 : 17,788人

¹⁰ Gグレードレース以外のレースで、FI・FIIと呼ばれるもの。

(5) 来場促進の取組

競輪祭や吉岡稔真カップ¹¹等の開催に合わせ、競輪未経験者やファミリー層も来場して楽しめるように、タレントショーや子ども向けイベント等を行っています。

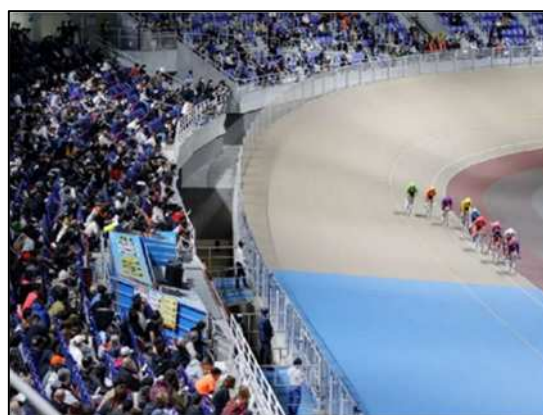
① 競輪祭〔令和4年度〕

*ゲスト：華原 朋美、武尊

*イベント：グルメ屋台、宝探し大会、占いコーナー等

② 吉岡稔真カップ（夏まつり）〔令和4年度〕

*イベント：ドームビアガーデン、おもしろ自転車コーナー等



第64回競輪祭



第64回競輪祭



夏まつり（イベント）

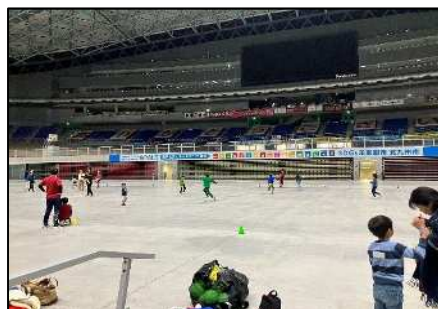
¹¹ 競輪祭3連覇など数々のGIレースを制した、本市出身の元競輪選手である吉岡稔真氏の功績を称えて開催するレース。

(6) 地域貢献の取組

競輪事業が社会貢献につながる事業であることを積極的に発信し、イメージアップを図っていくことで、市民理解を広げ、地域に親しまれるレース場となるよう、以下のような取組を行っています。

① 子ども食堂「どーむきっちゃん」〔令和元年度～〕

運動遊びや競輪選手との食事交流等による子どもや親子の居場所づくりを行っています。



② 小倉競輪場のバックヤードツアー〔令和3年度～〕

小学生を対象に、選手宿舍やバンクのバックヤードツアーを行い、競輪選手や関係者との交流を通し、キャリア教育に資する機会提供を行っています。



③ イベント「スーパー紙飛行機を作って遠くへ飛ばそう」〔令和5年度〕

参加費無料で開催することで、ファミリー層が気軽に来場するきっかけとしてもらうことを目的に行いました。



(7) 小倉競輪のイメージ

本市及びその近郊の居住者が小倉競輪にどのようなイメージを持っているのかを把握するため、令和5年10月にインターネットによるアンケートを行いました。

(調査対象¹²：本市及び市近郊に住む20歳以上 回答数：652人)

指 標		現状値 (令和5年度)	経営戦略改訂時 (令和3年度)	経営戦略策定時 (平成30年度)
小倉競輪のイメージ調査結果				
車券購入 未経験者	遊びに行きやすい	19%	15%	17%
	地域や社会に役立っている	67%	63%	64%
車券購入 経験者	遊びに行きやすい	76%	67%	76%
	地域や社会に役立っている	94%	85%	87%

小倉競輪に「遊びに行きやすい」イメージ及び「地域や社会に役立っている」イメージは、車券購入未経験者、経験者ともに、前回調査から上昇しました。

しかし、依然として車券購入未経験者にとっては、車券購入経験者に比べて、遊びに行きやすい施設であるというイメージは低く、地域や社会に役立っているイメージも低い傾向にあります。

¹² 北九州市、中間市、遠賀郡、京都郡在住の20代以上の男女を無作為に対象とし、インターネット調査にて回答を集計。

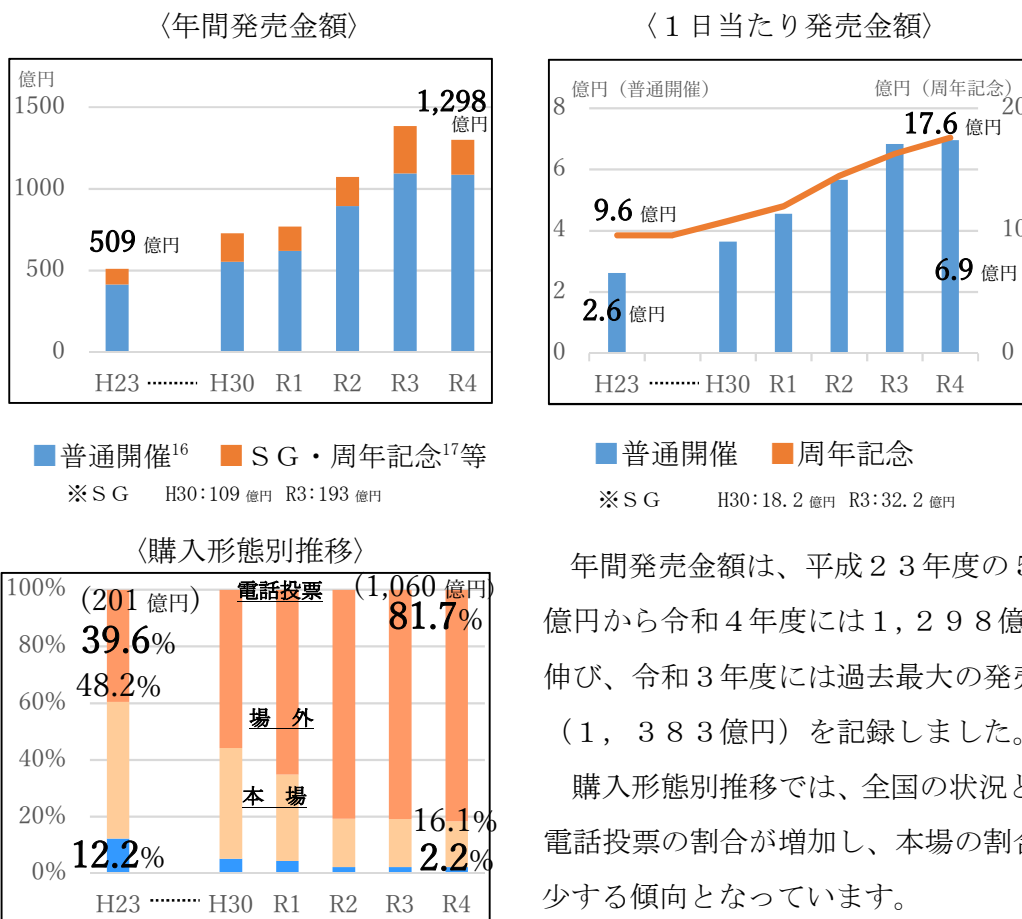
3 本市ポートレース事業（ポートレース若松）

（1）現況

全国のポートレース場の中で、いち早くナイター¹³化を図るとともに、SG競走¹⁴等のグレードレースの誘致、小倉競輪場内への場外舟券発売場開設、電話投票や場外発売といった広域発売の推進等、収益改善に取り組んできました。令和3年度からは、21時以降にもレースを実施するミッドナイトレース¹⁵を開催するなど、将来を見据えた売上の拡大に努めています。

また、本場来場者数が減少する中、東スタンド棟のリニューアルをはじめ、子ども向け屋内遊具広場（わかわくらんど）やボルダリングパーク（レッドロック）を全国のポートレース場に先駆け常設するなど、来場促進による本場の活性化に努めてきました。

（2）発売金額（平成23年度～令和4年度）



年間発売金額は、平成23年度の509億円から令和4年度には1,298億円に伸び、令和3年度には過去最大の発売額（1,383億円）を記録しました。

購入形態別推移では、全国の状況と同様、電話投票の割合が増加し、本場の割合が減少する傾向となっています。

¹³ 15時頃から21時までの時間帯に行うレース。

¹⁴ グレードレースのうち最高峰のレース。その他のグレードレースとして、GI・GII・GIIIがある。

¹⁵ 最終レースが21時過ぎから23時前までに行われるレース。

¹⁶ SG・GI以外の通常開催しているレース。

¹⁷ レース場開設を記念して毎年開催するGIレース。

また、ナイター開催のレース場が平成28年度までは本市を含め5場（桐生・蒲郡・住之江・丸亀・若松）でしたが、平成29年度に下関、平成30年度に大村が参入し、7場になりました。

こうした厳しい競合状況の中で、売上額を確保する取組が求められます。

(3) グレードレース

令和3年度のSG競走では200億円台に迫る売上額を記録し、令和4年度のGI競走では100億円を超える売上額を達成することができました。今後も、魅力あるレースを提供し、売上額を確保していくためにも、積極的にSG競走等の誘致に取り組んでいく必要があります。

()は売上額

	SG競走	GI競走
H30	オーシャンカップ(109億円) ¹⁸	周年記念(64億円)
R1	—	周年記念(70億円) ダイヤモンドカップ ¹⁹ (75億円)
R2	—	周年記念(87億円) ボートレースバトルチャンピオン トーナメント ²⁰ (87億円)
R3	オールスター(188億円) ²¹	周年記念(97億円)
R4	—	周年記念(120億円) 九州地区選手権(90億円) ²²
R5	—	周年記念(98億円) マスターズチャンピオン(100 億円) ²³

¹⁸ 「海の日」を記念して創設された、GIレースで活躍した選手が出場するSGレース。

¹⁹ 施設改善記念のGIレース。若松では、平成28年度の東スタンド棟リニューアルにより開催。

²⁰ 令和元年度に新設のプレミアムGIレース。トーナメント方式で、4日間の短期決戦。

²¹ ファン投票で出場選手が決まるSGレース。

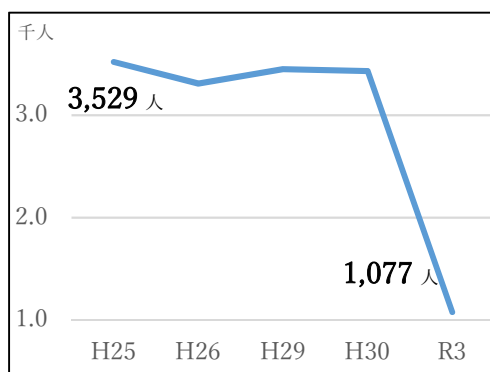
²² 九州地区のトップ選手が出場するGIレース。九州地区の5場の持ち回り開催。

²³ 満45歳以上の勝率上位者、ベテラン世代のトップ選手を対象とするプレミアムGIレース。

(4) 入場者数（1日当たり）

本場の1日当たりの入場者数は、元々の減少傾向に加え、新型コロナウイルス感染症拡大による無観客レースや入場制限の実施等の影響で、周年記念、普通開催ともに一段と減少し、新型コロナウイルス感染症拡大前までは戻っていません。

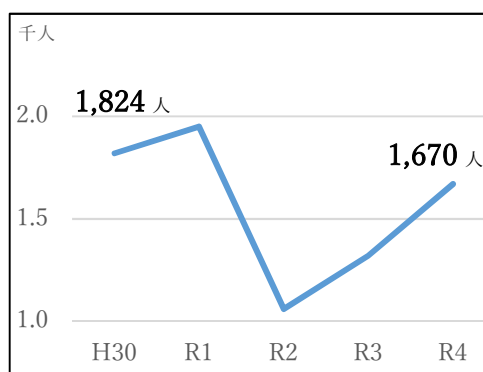
〈SG〉



【開催期間中の入場者数】

H25 : 21,173人 H26 : 19,885人 H29 : 20,710人
H30 : 20,619人 R3 : 6,463人

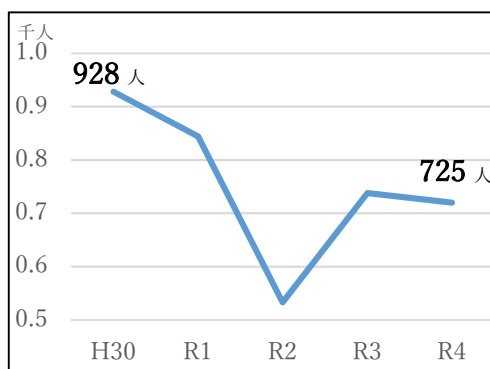
〈周年記念〉



【開催期間中の入場者数】

H30 : 10,942人 R1 : 11,751人 R2 : 6,416人
R3 : 7,918人 R4 : 10,019人

〈普通開催〉



【年間の入場者数】

H30 : 141,005人 R1 : 126,547人 R2 : 84,234人
R3 : 115,269人 R4 : 104,443人

(5) 来場促進の取組

S G競走等のレースや夏まつりの開催に合わせ、ボートレース未経験者やファミリー層も来場し楽しめるように、著名人やタレントのショー、子ども向けイベント等を行っています。

① 周年記念競走及び九州地区選手権〔令和4年度〕

*ゲスト：内村航平、ヒロシ、杉原杏璃、ソフトバンクホークスOB選手等

② 夏祭り〔令和4年度〕

*イベント：レーザー花火ショー、ヒーローショー、こども縁日等



R4 周年記念競走

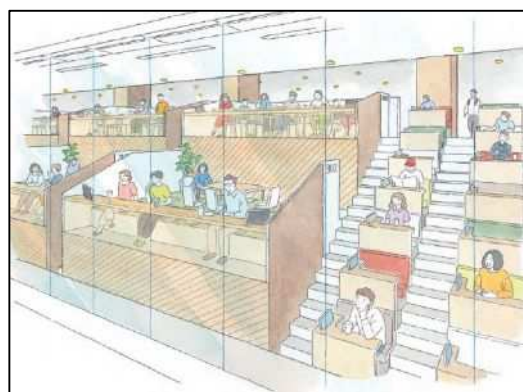


R4 夏祭り

また、子どもから大人まで幅広い世代を対象に、ボートレース中央団体が提唱する「ボートレースパーク化²⁴」に向け、芝生広場や子ども向け屋内外施設を備えた地域貢献エリアの整備を進めています。さらに、老朽化した西スタンド棟の改修計画により、新たなファン層の拡大を目指します。



地域貢献エリアイメージ



西スタンド棟改修イメージ

²⁴ 地域に開かれたボートレース場とするため、レース場に子ども達が遊べる施設や広場等を整備する取組。

(6) 地域貢献の取組

ボートレース事業が社会貢献につながる事業であることを積極的に発信し、イメージアップを図っていくことで、市民理解を広げ、地域に親しまれるレース場となるよう、以下のような取組を行っています。

① 子ども食堂「くれかきっちゃん」〔令和元年度～〕

運動遊びやボートレース選手との食事交流等による子どもや親子の居場所づくりを行っています。



② ボートレース若松のバックヤードツアー〔令和5年度〕

小学生を対象に、ボートレース場のバックヤードツアーを行い、元ボートレース選手や関係者との交流を通し、キャリア教育に資する機会提供を行っています。



③ イベント「二胡・ピアノ・尺八のコンサート」〔令和4・5年度〕

参加費無料で開催することで、気軽に来場するきっかけとしてもらうことを目的に行いました。



(7) ボートレース若松のイメージ

本市及びその近郊の居住者がボートレース若松にどのようなイメージを持っているのかを把握するため、令和5年10月にインターネットによるアンケートを行いました。(調査対象²⁵：本市及び市近郊に住む20歳以上 回答数：652人)

指 標		現状値 (令和5年度)	経営戦略改訂時 (令和3年度)	経営戦略策定時 (平成30年度)
ボートレース若松のイメージ調査結果				
舟券購入 未経験者	収益金が本市財源に充てられていることを知っている	22%	35%	39%
	遊びに行きやすい	15%	13%	15%
	地域や社会に役立っている	66%	61%	59%
舟券購入 経験者	収益金が本市財源に充てられていることを知っている	61%	70%	63%
	遊びに行きやすい	79%	69%	71%
	地域や社会に役立っている	89%	84%	82%

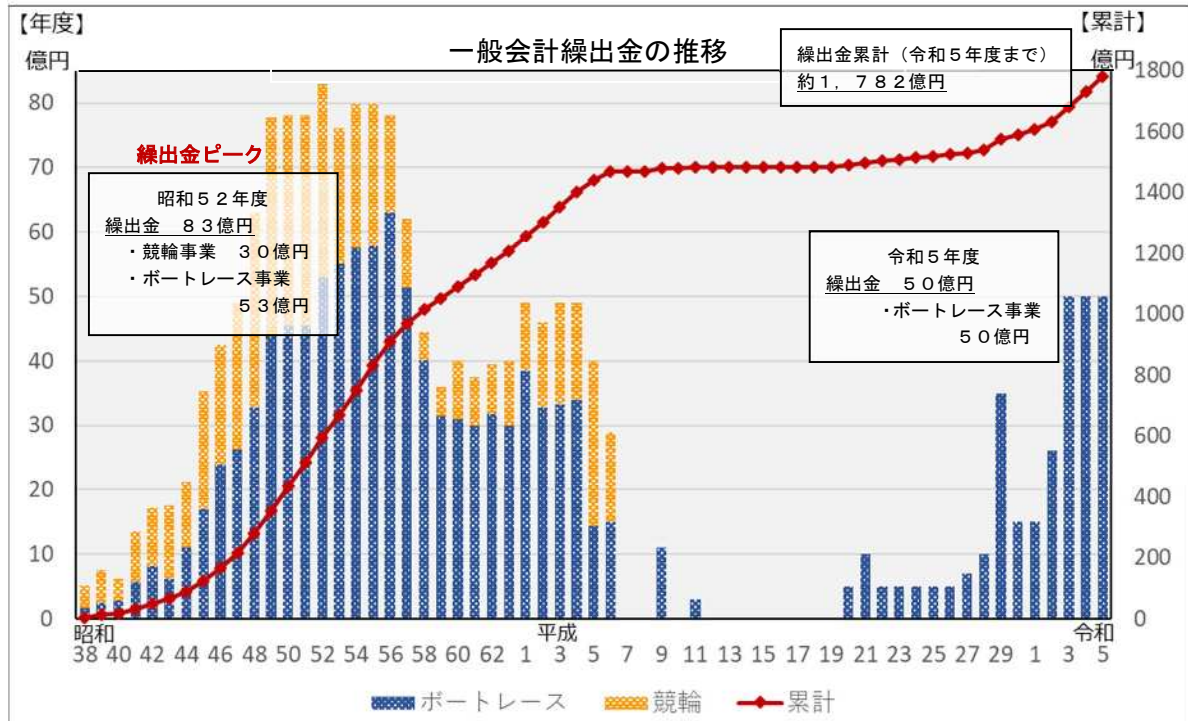
ボートレース若松の「収益金が本市財源に充てられていることを知っている」人の割合は舟券購入未経験者、経験者ともに前回数値を下回りました。

一方で「遊びに行きやすい」、「地域や社会に役立っている」イメージは、いずれも前回実績を上回る数値になり、舟券購入未経験者、経験者において6割以上の人、ボートレース若松が「地域や社会に役立っている」イメージを持っています。しかしながら、舟券購入未経験者においては、依然として遊びに行きやすい施設とのイメージは低く、収益金が本市財源に活用されていることもあまり知られていない結果となりました。

²⁵ 北九州市、中間市、遠賀郡、京都郡在住の20代以上の男女を無作為に対象とし、インターネット調査にて回答を集計。

4 本市の一般会計へ繰り出した金額

昭和38年の本市発足以降、競輪、ボートレース事業の収益金から、本市一般会計へ繰り出した金額は、総額で約1,782億円となっています。



繰出金は、子育て環境や教育の充実、文化・スポーツの振興などにつながる事業の財源として活用されており、その用途等を本市ホームページで公開²⁶しています。

競輪事業・モーターボート競走事業の収益金

公営競技事業（競輪事業・モーターボート競走事業）の収益金は、子育て環境や教育の充実、文化・スポーツの振興などにつながる事業の財源となっています。

平成30年12月の若戸大橋トンネルの無料化実現のための財源として、ボートレース若松の収益金約25億円が活用されたよ。

収益金の一部

子育て環境や教育の充実

文化・スポーツの振興など

【出典 本市 HP「マンガで読める！わかりやすい北九州市の財政（令和4年度版）」より抜粋

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/zaisei/09000077.html>】

²⁶ 本市 HP「公営競技事業収益金の活用」 <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/zaisei/09000017.html>

5 企業債の残高

施設の整備等の財源として発行した企業債の残高は、令和4年度末時点で52億円となっています。このうち、競輪事業が42億円で、主に北九州メディアドーム建設費等の財源に、ボートレース事業が10億円で、主にスタンド改修費等の財源に充てられたものです。

また、この52億円を償還するための資金として既に12億円（競輪：6億円、ボートレース：6億円）を公債償還基金に積み立てているため、この12億円を除いた40億円が実質的な企業債残高となります。

6 競輪競艇整備基金の残高

競輪競艇整備基金は、将来の施設整備・改修や企業債の償還に充てるための財源として、収益金から積み立てたもので、これまで競輪事業の企業債償還の財源に充当しています。令和4年度末時点の残高は59億円となっており、上記5に記載の企業債の償還を賄える額を保有しています。

7 前期計画（令和元年度～令和5年度）期間の実施状況

（1）将来像Ⅰ～選ばれるレース場～

前期計画中には、新型コロナウイルス感染症の影響による本場の無観客開催や入場制限、車券・舟券の電話投票による発売額の伸びなど、公営競技を取り巻く環境は大きく変化しました。

令和3年度には、昭和38年の本市発足以降、過去最高となる1,754億円の車券・舟券発売額を記録し、前期計画中の収益金目標、繰出金目標については令和5年度に達成となります。一方で、本場有料入場者数については、競輪事業・ボートレース事業とも前期計画で定めた目標値には未達の見込みであり、引き続き本場活性化施策が求められます。

（2）将来像Ⅱ～健全な運営・信頼されるレース場～

競輪事業の重要な課題である、小倉競輪を開催する北九州メディアドーム建設に係る企業債の償還は、前期計画で、順調に進んでおり令和8年度に償還完了予定です。

また、ボートレース若松においては、日常的な施設・設備の点検のほか、選手の安全確保やレースの安定的な開催のため、防風板設置の実施設計や波浪防護堤整備の検討等、経営基盤の強化を図っています。

（3）将来像Ⅲ～親しまれるレース場～

本市の公営競技事業のイメージアップを推進する組織として、令和元年度に「地域貢献室」を新設し、小倉競輪では全国の競輪場初の「子ども食堂」開設や、ボートレース若松では地域交流施設「クレカ若松」の運営等、地域に親しまれるレース場となるための取組を行いました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、北九州メディアドーム及びクレカ若松は貸館業務を一部停止しワクチン接種会場として提供したほか、ボルダリングパーク「レッドロック」や子ども向け屋内遊具広場「わかわくらんど」の利用制限や、緊急事態宣言発出等によるイメージアップ事業の自粛など、公営競技の公益性を発信することが難しい状況が続きました。

こうしたことから、令和5年10月に実施した「小倉競輪・ボートレース若松のイメージ調査」結果において、舟券購入経験の有無にかかわらず「収益金が本市財源に充てられていることを知っている」人の割合や、車券、舟券購入未経験者における「遊びに行きやすい」「地域や社会に役立っている」イメージを持った人の割合は、前期計画で定めた目標値には未達となったことから、これまで以上に積極的な公営競技事業の公益性の発信が求められます。

8 現状を踏まえた課題と目指すべき将来像の方向性

(1) 将来像Ⅰ～選ばれるレース場～

① 競輪事業

小倉競輪の売上については、令和元年度から令和4年度まで対前年度増を達成し、好調な業績が続いています。FⅠ開催、FⅡ開催は毎年伸び続けている一方、ミッドナイト開催は令和元年度以降大きく伸びた後、令和3年度以降横ばいとなっています。これは、ミッドナイト開催を行う競輪場が増え競合数が増してきたことによるもので、今後は競合開催における売上確保に向けた取組が必要です。

本場有料入場者数に関しては、元々減少傾向でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で減少が顕著になりました。今後、新規ファンの獲得に向けた取組を進め、「選ばれるレース場」を目指していく必要があります。

② ボートレース事業

売上について、令和2年度、3年度に過去最高売上を更新し、4年度も同水準を保っていますが、新型コロナウイルス感染症の収束以降の社会情勢を注視しながら、一定額以上の売上確保に向けた取組が必要です。

本場有料入場者数に関しては、元々減少傾向でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で減少が顕著になりました。今後、来場促進と売上確保のためには、老朽化した西スタンド棟の改修（令和10年度供用開始予定）や外向発売所の移転新築（令和6年秋完成予定）などの取組を進め、「選ばれるレース場」を目指していく必要があります。

(2) 将来像Ⅱ～健全な運営・信頼されるレース場～

① 競輪事業

北九州メディアドームは建築後25年が経過するなど、施設の老朽化が進行しており、将来的に大規模な改修工事が見込まれるため、整備内容の検討や改修にかかる財源の確保などが必要です。

確実に企業債償還を行いながら、健全な経営を継続し、一般会計繰出しの再開に向け、今後の収支や資金需要など財務分析に基づいた経営を行い、「健全な運営・信頼されるレース場」を目指していく必要があります。

② ボートレース事業

施設の大規模改修を実施するとともに、日常点検等を行いながら、安定的にレースを開催する必要があります。

令和2年度以降、過去最高水準で舟券の売上額が推移しており、健全な経営を維持しながら一般会計への繰出しも高水準で実施しています。今後も、安定的かつ継続的に本市財政へ寄与するという公営競技の使命を果たすため、収益確保に努めるとともに、継続的に一般会計への繰出しを行いつつ、剰余金の活用などを図ることで「健全な運営・信頼されるレース場」を目指していく必要があります。

(3) 将来像Ⅲ～親しまれるレース場～

① 競輪事業

車券購入経験に関わらず6割以上の方が地域や社会に役立っていると感じていますが、購入経験の有無により、小倉競輪が遊びに行きやすい施設かどうかのイメージに大きな開きが見られます。

市民に親しまれるレース場となるよう、地域・社会貢献につながる事業であることを、特に車券購入経験の無い方にも認知してもらえるよう、より積極的に発信するとともに、レース目的以外でも気軽に来場できる取組を実施し、「親しまれるレース場」を目指していく必要があります。

② ボートレース事業

舟券購入経験に関わらず6割以上の方が地域や社会に役立っていると感じていますが、ボートレース若松の収益金の活用に関する認知度は低下しています。また、購入経験の有無により、ボートレース若松が遊びに行きやすい施設かどうかのイメージに大きな開きが見られます。

市民に親しまれるレース場となるよう、地域・社会貢献につながる事業であることを、特に舟券購入経験の無い方にも認知してもらえるよう、より積極的に発信するとともに、レース目的以外でも気軽に来場できる取組を実施し、「親しまれるレース場」を目指していく必要があります。

第4章 後期目標

1 後期目標の基本的な考え方

前期計画期間では、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、公営競技は全国的に好調な発売状況となり、本市においても一般会計への繰出金は過去40年間における最高水準で推移しています。一方で、新型コロナウイルス感染症が収束傾向になると、徐々に発売額は伸び悩む傾向となり、今後は減少に転じる可能性もあります。

この状況において、後期計画期間も収益金の確保に取り組み、競輪では一般会計への繰出しの再開、ボートレースでは現状の繰出し水準の維持を目指すことを基本的な考えとします。

2 後期計画期間の発売予測

(1) 近年の車券・舟券発売金額（全国）の増減傾向

	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度上半期 (4～9月)
競輪	+1.0%	+13.6%	+28.6%	+13.1%	+5.8%
ボートレース	+12.4%	+35.7%	+14.2%	+0.9%	▲2.7%

競輪・ボートレースともに、発売額は令和2年度以降大幅に増加しましたが、直近では増加率は縮小傾向にあります。

(2) 後期計画期間の発売予測と発売目標

近年の発売額の傾向から、発売額は近々に減少に転じる可能性があります。過去においては、平成3年度に発売額がピークとなって以降、各公営競技の発売額は約20年間減少傾向となりました。そのため、ピーク後に発売額が減少を続けることも念頭に置き、発売額及び収益金の確保を目指します。

① 競輪事業

車券発売額は微増傾向ではあるものの、近年中にピークを迎え、減少傾向に転じる可能性も踏まえ、競輪祭や女子王座戦など、ファンの満足度を高めるレースの開催に努め、令和4年度の発売額水準の維持を目指します。

② ボートレース事業

舟券発売額は、令和4年度をピークとして、令和5年度は横ばい又は減少に転じる可能性があります。過去には、平成3年度のピークから5年間で約18.5%減少したことや、令和5年の対前年の減少率(▲2.1%)を踏まえると、今後、発売額の減少が続

くことも予想されます。

そのため、グレードレースの開催誘致やミッドナイトレースの開催日数拡大などにより、発売額の確保に取り組みます。

3 後期目標

(1) 期間

令和6年度～令和10年度

(2) 目標

企業理念の実現に向けて、公営競技事業により収益金を確保し、本市財政へ寄与するため、「収益金」と「一般会計への繰出金」の金額を目標として設定します。

① 収益金の目標

- ・ 競輪事業 後期5年間を通して 合計 50億円以上
- ・ ボートレース事業 後期5年間を通して 合計 480億円以上

② 一般会計への繰出金の目標

- ・ 競輪事業 後期5年間を通して 合計 10億円以上
- ・ ボートレース事業 後期5年間を通して 合計 250億円以上

(3) 収支見込み（概要）

(百万円)

		競輪事業					ボートレース事業				
		R6予算案	R7見込	R8見込	R9見込	R10見込	R6予算案	R7見込	R8見込	R9見込	R10見込
収益的 収 支	収益的収入	42,869	40,984	41,004	41,027	41,051	143,514	127,285	112,324	117,379	116,433
	収益的支出	41,873	39,980	39,995	40,004	40,039	134,301	116,601	103,214	107,823	106,975
	収支差引(収益金)	996	1,004	1,010	1,022	1,012	9,213	10,684	9,110	9,556	9,458
資本的 収 支	資本的収入	933	75	1,909	0	0	600	858	1,250	0	0
	資本的支出	1,512	435	2,569	1,565	1,618	8,356	8,890	9,950	8,952	9,511
	うち 一般会計繰出金	0	0	400	300	300	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
資 金 収 支	単年度資金収支	986	1,240	959	64	22	2,366	3,264	1,026	1,469	798
	累積資金収支	7,062	8,302	9,261	9,325	9,347	32,949	36,213	37,239	38,708	39,506

※ 32～35 ページの長期収支より抜粋

第5章 後期計画～競輪事業～



I 選ばれるレース場を目指して

【基本方針】

- 1 競輪祭の実質固定開催場としての知名度、屋内レース場での安定開催の優位性を活かし、開催種別ごとに、その特性を踏まえた売上向上策に取り組む。
 - (1) 競輪祭（G I）（G I 競輪祭女子王座戦含む）
 - (2) ミッドナイト競輪
 - (3) 普通開催
- 2 既存ファンの確保と新規ファンの獲得により、本場来場者数の増加策に取り組む。
- 3 中央団体¹が実施する新規の競輪振興策の積極的な活用と他施行者や民間ポータル事業者との連携により、売上額向上を図る。

【取組項目】

1 競輪祭の売上額の向上

- (1) ナイター6日制開催の継続
- (2) 効果的な広報宣伝の実施
 - ・中央団体や民間ポータルとの連携による全国からの集客
 - ・地上波放送継続によるインターネット投票の拡大と競輪の認知度向上
 - ・SNS等を通じた新規ファン獲得と売上額向上
- (3) 場外発売場の拡大
 - ・全国41競輪場での小倉競輪の場外発売の実現

2 ミッドナイト競輪の売上額の確保

- (1) 計画的な開催日程の実現
- (2) 魅力あるレースの提供

3 普通競輪（F I・F II）の売上額の確保

- (1) 場外発売場の拡大【再掲】
- (2) 魅力あるレースの提供【再掲】
 - ・競合開催における発走時刻調整

4 本場来場者数の確保

- (1) 効果的な広報宣伝の実施【再掲】

¹ 広域発売や競技の実施等を行う「公益財団法人 JKA」及び各施行者の連絡調整機関である「公益社団法人 全国競輪施行者協議会」のこと。

- ・テレビCMの作成、放映等
- (2) 積極的な情報発信
 - ・包括受託者との緊密な連携による周辺地域からの集客
- (3) ファンサービスの充実
 - ・キャッシュレスカードを活用したサービス等の充実
- (4) 快適な空間の提供
 - ・有料席を含む座席、モニター、キャッシュレス投票機の充実
- (5) 来場者の実態把握

5 中央団体等の施策活用

- (1) 中央団体の施策活用・協力
 - ・ミッドナイトレースやガールズケイリン等、中央団体実施の企画レース誘致
- (2) 場外併売の拡大

6 他施行者との連携による売上額の向上

- (1) 受託発売²におけるファンのニーズにあった車券購入機会の提供
 - ・モーニングやナイターレース等、他場レースの受託発売強化
- (2) 借上げ開催³の実施による収益の確保

II 健全な運営・信頼されるレース場を目指して

【基本方針】

- 1 企業債の償還に取り組みつつ、将来的に必要な大規模改修の費用を確保する。
 - ・令和8年度までに企業債を完済
 - ・令和10年度までに供用30年の節目を迎えるドームの大規模改修費用の確保
 - ・企業債の完済を前提に一般会計への繰出しを再開
- 2 競輪実施事務の包括委託契約更新（令和7年度）に当たり、更なる経費の効率化を目指す。
 - ・車券の発売体制や運営事務局の業務効率化、組織体制の強化
- 3 レースを安定的に実施するため、計画的な施設・設備の改修を実施する。
 - ・大規模改修以外の施設の計画的な改修
 - ・大規模改修の方針策定に着手
- 4 来場者に安全・安心な場内環境を提供するため、場内秩序を維持する。
- 5 競輪全体の売上額向上及び施行者収益の向上策を中央団体と連携して構築する。

² 他の施行者が主催するレースを発売すること。

³ 施設上の理由等により自場で競輪を開催できない施行者が小倉競輪場を借上げて開催するレース。

【取組項目】

1 安定的なレースの開催

- (1) 計画的な施設・設備の改修
 - ・大規模改修の方針策定
- (2) 施設・設備のきめ細やかな点検の実施

2 安全・安心な環境の提供

- (1) 場内秩序の維持
- (2) 災害時や緊急時の的確な対応
- (3) 国や県、中央団体等と連携したギャンブル等依存症対策への適切な対応
 - ・相談窓口の設置及び依存症対策関係機関の紹介
 - ・本人、家族の申し出による入場及び電話投票の制限

3 業務運営の改善・効率化

- (1) 発売体制の効率化
- (2) 専用場外発売施設の充実
- (3) 北九州メディアドームの施設貸出料金の見直し
- (4) 包括委託事務の実施状況の精査と運営方針の策定
- (5) 光熱水費の削減
- (6) 自己点検・評価等の実施

4 組織体制の強化

- (1) 職員の専門性の向上
- (2) 組織活力の創出
- (3) 会計年度任用職員の人材活用

5 中央団体等との連携

- (1) 中央団体の施策活用・協力【再掲】
- (2) 場外併売の拡大【再掲】
- (3) 競輪宣伝の強化

6 情報公開

- (1) 財務諸表等の公開
- (2) 本戦略の公開

Ⅲ 親しまれるレース場を目指して

【基本方針】

- 1 企業イメージの向上につながる取組を積極的に推進する。
- 2 地域に親しまれる多目的施設として、北九州メディアドームの利用者数の増加を目

指す。

【取組項目】

1 イメージアップ事業の企画・実施

- (1) 子ども食堂等イメージアップ事業の企画・実施
- (2) 競輪事業の公益性の情報発信
- (3) 環境の美化

2 施設の地域開放の促進

- (1) 場内施設を活用した地域開放
 - ・アリーナや未活用エリアを活用したスポーツ利用等の検討

3 北九州メディアドームの貸館機能の充実

- (1) 利用者の利便性の向上
 - ・申込手続きのオンライン化やキャッシュレス決済の導入
- (2) イベント情報の発信

第6章 後期計画～ボートレース事業～

I 選ばれるレース場を目指して



【基本方針】

- 1 ナイターレース場が競合する中で、売上額を安定的に確保するとともに、普通開催売上における電話投票、場外の売上額のシェア確保を目指す。
- 2 SG競走等のグレードレースを誘致する。
- 3 既存ファンの確保と新規ファンの獲得により、本場来場者数の確保につなげる。
- 4 中央団体¹の施策を活用し、売上額及び来場者数の確保やイメージアップにつなげる。
- 5 受託発売の売上額の向上を目指す。

【取組項目】

1 電話投票・場外売上額の確保

- (1) 魅力あるレースの提供
 - ・選手あっせんの強化、企画レースの実施
- (2) 開催日程等の工夫
 - ・他場と競合を避けた開催、売上額向上が見込める効果的な日程編成
- (3) 積極的な情報発信
 - ・SNS等を活用した電話投票に適した発信やキャンペーン
- (4) ファンサービスの充実
- (5) 場外発売協力場・BTS²の拡大

2 SG競走等の誘致

- (1) SG競走等の誘致

3 本場来場者数の確保

- (1) 快適な空間の提供
 - ・西スタンド棟の改修による新たなファン層の拡大、来場のきっかけ作り
- (2) ファンサービスの充実【再掲】
- (3) 来場者の実態把握
- (4) 積極的な情報発信【再掲】
- (5) SG競走等の誘致【再掲】

¹ 広域発売や競技の広報等を行う「一般財団法人 BOATRACE 振興会」及び各施行者の連絡調整機関である「一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会」のこと。

² ボートレースチケットショップ（場外舟券発売場）のこと。モニター等によりレースを観戦する。

4 受託発売の売上額の向上

- (1) 外向発売所³の充実
 - ・指定席や個室整備等、高額購入者の取り込みなどによる売上額向上
- (2) B T S 北九州メディアドームの充実

II 健全な運営・信頼されるレース場を目指して

【基本方針】

- 1 レースを安定的に開催するため、計画的な施設・設備の改修に取り組む。
- 2 発売体制及び事務の効率化や組織の強化等により、健全な業務運営に取り組む。

【取組項目】

1 安定的なレースの開催

- (1) 計画的な施設・設備の改修
- (2) 施設・設備のきめ細やかな点検の実施

2 安全・安心な環境の提供

- (1) 場内秩序の維持
- (2) 災害時や緊急時の的確な対応
- (3) 国や県、中央団体等と連携したギャンブル等依存症対策への適切な対応
 - ・相談窓口の設置及び依存症対策関係機関の紹介
 - ・本人、家族の申し出による入場及び電話投票の制限

3 業務運営の改善・効率化

- (1) 発売体制の効率化
- (2) 事務の効率化
- (3) 本場施設改革改善相談部署⁴の活用
- (4) 自己点検・評価等の実施

4 組織体制の強化

- (1) 職員の専門性の向上
- (2) 組織活力の創出
- (3) 会計年度任用職員の人材活用

5 中央団体等との連携

- (1) 中央団体等の施策の活用

³ ボートレース若松に併設する舟券発売施設のこと。令和6年秋に移転新築予定。

⁴ 施行者の本場施設の改革・改善への取組に対する協力を行う BOATRACE 振興会の部署のこと。

(2) 本場施設改革改善相談部署の活用【再掲】

6 情報公開

(1) 財務諸表等の公開

(2) 本戦略の公開

Ⅲ 親しまれるレース場を目指して

【基本方針】

- 1 企業イメージの向上につながる取組を積極的に推進する。
- 2 ボートレースパーク化を推進する。
- 3 クレカ若松を地域における交流拠点として定着させる。

【取組項目】

1 イメージアップ事業の企画・実施

- (1) 子ども食堂等イメージアップ事業の企画・実施
- (2) ボートレース事業の公益性の更なる情報発信
- (3) 環境の美化

2 施設の地域開放の促進

- (1) 場内施設を活用した地域開放
- (2) ボートレースパーク化
 - ・芝生広場や子ども向け屋内外施設を備えた地域貢献エリアの整備

3 クレカ若松の利用促進

- (1) 認知度の向上
- (2) 利用者の利便性の向上
 - ・申込手続きのオンライン化やキャッシュレス決済の導入
- (3) 災害時の施設提供

第7章 後期計画の指標・長期収支

1 選ばれるレース場を目指して

～競輪事業～

指 標		目標値 (令和10年度)	現状値 (令和4年度)
競輪祭	売上額	125 億円	122 億円
ミッドナイト競輪売上額 (1日当たり)		4 億円	4 億円
普通開催売上額 (1日当たり)		4 億円	4 億円
本場有料	競輪祭	1.8 万人	1.4 万人
入場者数	普通開催 (年間)	2.6 万人	1.8 万人
受託発売の売上額 (年間)		35 億円	29 億円

～ポートレース事業～

指 標		目標値 (令和10年度)	現状値 (令和4年度)
電話投票 (普通開催)	ナイターレース場全体の売上 額のうち若松が占める割合	15%	14%
	売上額 (年間)	800 億円	880 億円
場外 (普通開催)	ナイターレース場全体の売上 額のうち若松が占める割合	13%	14%
	売上額 (年間)	145 億円	171 億円
ミッドナイトレース開催日数		30 日	12 日
SG競走等の誘致		2 回	SG1 回・PG I 1 回
本場有料 入場者数	普通開催 (1日当たり)	700 人	725 人
	周年開催 (1日当たり)	1,600 人	1,670 人
	SG競走 (1日当たり)	3,000 人	1,077 人(R3)
受託発売の売上額 (年間)		110 億円	92 億円

2 健全な運営・信頼されるレース場を目指して

～競輪事業～

項 目		前期計画期間				
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
		R元年度決算 競輪祭・GⅢ	R2年度決算 競輪祭	R3年度決算 競輪祭	R4年度決算 競輪祭	R5年度予算 競輪祭
収益的収支	収益的収入	29,817	35,608	38,272	40,987	42,235
	営業収益	29,507	35,373	37,913	40,592	41,905
	営業外収益	310	197	354	395	277
	特別利益	0	38	5	0	53
	収益的支出	29,238	34,411	36,825	39,677	41,251
	営業費用	29,218	34,377	36,783	39,643	41,189
	減価償却費等	437	445	447	679	555
	営業外費用	21	34	42	34	61
	特別損失	0	0	0	0	1
	収支差引	579	1,197	1,446	1,310	984
資本的収支	資本的収入	1,265	1,312	1,284	1,687	1,495
	企業債	0	0	0	0	0
	出資金	1,265	1,265	1,265	1,500	1,400
	基金繰入金	0	0	0	187	40
	その他収入	0	47	19	0	56
	資本的支出	1,612	1,702	2,383	2,201	2,134
	建設改良費	294	275	941	364	603
	企業債償還金	1,265	1,265	1,265	1,675	1,375
	投資	53	163	177	163	156
	基金積立金	53	163	177	163	156
	出資金	0	0	0	0	0
一般会計繰出金	0	0	0	0	0	
差引過不足	▲ 347	▲ 390	▲ 1,099	▲ 514	▲ 639	
補填財源	収支差引(収益的収支)	579	1,197	1,446	1,310	984
	損益勘定留保資金等	395	319	259	761	556
	計	973	1,516	1,706	2,071	1,540
資金収支	単年度収支	626	1,125	607	1,557	901
	累積資金	1,887	3,012	3,619	5,175	6,077

基金残高	競輪競艇整備基金	0	0	0	0	0
	公債償還基金	285	448	625	600	716
	計	285	448	625	600	716
企業債残高		8,405	7,140	5,875	4,200	2,825

利益処分	利益剰余金	553	1,172	1,362	1,277	934
	一般会計繰出金	0	0	0	0	0
	建設改良積立	0	1,725	1,362	1,277	934
	取崩	0	0	0	0	0
	残高	668	2,393	3,756	5,033	5,967
	繰越利益剰余金	553	0	0	0	0
	残高	553	0	0	0	0

収支計画の考え方

令和6年度は予算案、令和7年度以降は見込額を計上

【収益的収支】

- 開催内容 年間75日開催(うち、競輪祭6日、ミッドナイト競輪24日)
- 車券発売額 年間発売額 令和6年度:415億円、令和7年度以降:400億円
- 支出額は以下により算出
 - ・ 払戻金など発売額に連動する費用は、発売額をもとに算出
 - ・ 減価償却費は、既存の固定資産残高及び今後の建設改良費見込額をもとに算出
 - ・ 職員給与費は、令和5年度の配置人員、給与水準をもとに算出
 - ・ その他の費用(委託費など)は、令和4年度実績額・令和5年度予算額などをもとに算出

第7章 後期計画の指標・長期収支

単位:百万円

後期計画期間					項 目	
6年次	7年次	8年次	9年次	10年次		
R6年度予算案	R7年度見込	R8年度見込	R9年度見込	R10年度見込		
競輪祭	競輪祭	競輪祭	競輪祭	競輪祭		
42,869	40,984	41,004	41,027	41,051	収益的収入	収益的収支
42,458	40,739	40,756	40,774	40,792	営業収益	
359	245	248	253	259	営業外収益	
53	0	0	0	0	特別利益	
41,873	39,980	39,995	40,004	40,039	収益的支出	
41,817	39,951	39,966	39,976	40,010	営業費用	
576	596	610	607	627	減価償却費等	
55	29	28	28	28	営業外費用	
1	1	1	1	1	特別損失	
996	1,004	1,010	1,022	1,012	収支差引	
933	75	1,909	0	0	資本的収入	資本的収支
0	0	0	0	0	企業債	
600	75	1,250	0	0	出資金	
277	0	659	0	0	基金繰入金	
56	0	0	0	0	その他収入	
1,512	435	2,569	1,565	1,618	資本的支出	
557	250	264	1,265	1,318	建設改良費	
845	75	1,905	0	0	企業債償還金	
110	110	0	0	0	投資	
110	110	0	0	0	基金積立金	
0	0	0	0	0	出資金	
0	0	400	300	300	一般会計繰出金	
▲ 579	▲ 360	▲ 660	▲ 1,565	▲ 1,618	差引過不足	
996	1,004	1,010	1,022	1,012	収支差引(収益的収支)	補填財源
569	596	610	607	627	損益勘定留保資金等	
1,565	1,600	1,620	1,629	1,639	計	資金収支
986	1,240	959	64	22	単年度収支	
7,062	8,302	9,261	9,325	9,347	累積資金	

0	0	0	0	0	競輪競艇整備基金	基金残高
549	659	0	0	0	公債償還基金	
549	659	0	0	0	計	
1,980	1,905	0	0	0	企業債残高	

986	993	1,000	1,012	1,002	利益剰余金	利益処分
0	0	400	300	300	一般会計繰出金	
986	993	600	712	702	建設改良積立	
0	0	0	0	0	取崩	
6,954	7,947	8,547	9,259	9,961	残高	
0	0	0	0	0	繰越利益剰余金	
0	0	0	0	0	残高	

※ 表中の金額は、四捨五入による端数を調整していないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

【資本的収支】

- 収入
 - ・ 企業債 新規発行は見込まない
 - ・ 基金繰入金 企業債償還の原資として公債償還基金からの繰入金を計上
 - ・ 出資金 競輪競艇整備基金からの繰入金を出資金で受入れ
(ボートレース事業からの事業間振替)
- 支出
 - ・ 建設改良費 今後の施設整備計画をもとに計上
 - ・ 企業債償還金 令和8年度にすべての企業債の償還を完了
 - ・ 一般会計繰出金 令和8年度より一般会計への繰出しを再開

第7章 後期計画の指標・長期収支

～ボートレース事業～

項 目	前期計画期間					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	
	R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度予算	
	G I (ダイヤモンド)	PG I (BBCT)	SG(オールスター)	G I (地区選)	PG I (マスターズ)	
収益的収支	収益的収入	79,563	109,913	141,603	132,899	133,230
	営業収益	79,489	109,868	141,504	132,848	133,173
	営業外収益	74	45	98	44	57
	特別利益	0	0	0	7	0
	収益的支出	74,694	100,124	127,985	120,696	125,175
	営業費用	74,619	100,014	127,854	120,578	125,001
	減価償却費等	624	725	746	728	898
	営業外費用	75	109	132	118	172
	特別損失	0	0	0	0	1
	収支差引	4,869	9,789	13,617	12,203	8,056
資本的収支	資本的収入	1,793	1,400	1,300	1,556	1,400
	企業債	0	0	0	0	0
	出資金	0	0	0	0	0
	基金繰入金	1,793	1,400	1,300	1,543	1,400
	その他収入	0	0	0	12	0
	資本的支出	3,657	4,615	7,044	7,168	9,165
	建設改良費	291	447	307	397	2,605
	企業債償還金	477	183	351	158	38
	投資	1,390	1,385	1,385	1,613	1,522
	基金積立金	125	120	120	113	122
出資金	1,265	1,265	1,265	1,500	1,400	
一般会計繰出金	1,500	2,600	5,000	5,000	5,000	
差引過不足	▲ 1,864	▲ 3,215	▲ 5,744	▲ 5,613	▲ 7,765	
補填財源	収支差引(収益的収支)	4,869	9,789	13,617	12,203	8,056
	損益勘定留保資金等	600	724	566	891	916
	計	5,469	10,513	14,183	13,094	8,971
資金収支	単年度収支	3,605	7,299	8,440	7,482	1,207
	累積資金	6,157	13,455	21,895	29,376	30,583

基金残高	競輪競艇整備基金	10,109	8,735	7,461	5,986	4,621
	公債償還基金	377	471	565	609	696
	計	10,486	9,206	8,026	6,595	5,317
企業債残高		1,714	1,531	1,180	1,022	984

利益処分	利益剰余金	4,806	9,756	13,586	12,181	7,842
	一般会計繰出金	1,500	2,600	5,000	5,000	5,000
	建設改良積立	0	5,161	4,286	3,581	1,342
	取崩	0	0	0	0	0
	残高	513	5,674	9,961	13,542	14,884
	繰越利益剰余金	3,306	1,994	4,300	3,600	1,500
	残高	3,906	5,900	10,200	13,800	15,300

収支計画の考え方 令和6年度は予算案、令和7年度以降は見込額を計上

【収益的収支】

- 開催内容 年間開催日数(G I 周年記念及び普通開催) : 168日
グレードレース(確定) 令和6年度: SGボートレースクラシック、令和9年度: G I 九州地区選手権
令和6～10年度(毎年): G I 周年記念競走
グレードレース(見込) 令和7年度: PG I、令和10年度: G I
- 舟券発売額 令和10年度にかけ減少傾向となることを想定
周年記念競走、普通開催の発売額 令和5年度予算: 1,190億円→令和10年度: 1,050億円
- 支出額は以下により算出
 - ・ 払戻金など発売額に連動する費用は、発売額をもとに算出
 - ・ 減価償却費は、既存の固定資産残高及び今後の建設改良費見込額をもとに算出
 - ・ 職員給与費は、令和5年度の配置人員、給与水準をもとに算出
 - ・ その他の費用(委託費など)は、令和4年度実績額・令和5年度予算額などをもとに算出

第7章 後期計画の指標・長期収支

単位:百万円

後期計画期間					項 目	
6年次	7年次	8年次	9年次	10年次		
R6年度予算案	R7年度見込	R8年度見込	R9年度見込	R10年度見込		
SG(クラシック)	PG I		G I (地区選)	G I		
143,514	127,285	112,324	117,379	116,433	収益的収入	収益的収支
143,481	127,256	112,294	117,352	116,407	営業収益	
33	29	29	27	26	営業外収益	
0	0	0	0	0	特別利益	
134,301	116,601	103,214	107,823	106,975	収益的支出	
134,137	116,471	103,093	107,705	106,861	営業費用	
943	622	625	873	858	減価償却費等	
163	129	120	116	113	営業外費用	
1	1	1	1	1	特別損失	
9,213	10,684	9,110	9,556	9,458	収支差引	
600	858	1,250	0	0	資本的収入	資本的収支
0	0	0	0	0	企業債	
0	0	0	0	0	出資金	
600	858	1,250	0	0	基金繰入金	
0	0	0	0	0	その他収入	
8,356	8,890	9,950	8,952	9,511	資本的支出	
2,621	2,900	3,655	3,445	4,004	建設改良費	
38	908	38	0	0	企業債償還金	
697	82	1,257	507	507	投資	
97	7	7	507	507	基金積立金	
600	75	1,250	0	0	出資金	
5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	一般会計繰出金	
▲ 7,756	▲ 8,032	▲ 8,700	▲ 8,952	▲ 9,511	差引過不足	
9,213	10,684	9,110	9,556	9,458	収支差引(収益的収支)	補填財源
909	613	616	865	851	損益勘定留保資金等	
10,122	11,297	9,726	10,421	10,309	計	
2,366	3,264	1,026	1,469	798	単年度収支	資金収支
32,949	36,213	37,239	38,708	39,506	累積資金	
4,031	3,963	2,720	3,227	3,734	競輪競艇整備基金	基金残高
783	0	0	0	0	公債償還基金	
4,814	3,963	2,720	3,227	3,734	計	
946	38	0	0	0	企業債残高	
9,121	10,577	9,018	9,461	9,364	利益剰余金	利益処分
5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	一般会計繰出金	
2,021	2,777	1,918	2,161	2,164	建設改良積立	
2,000	2,500	3,500	3,000	3,500	取崩	
14,905	15,181	13,600	12,761	11,424	残高	
2,100	2,800	2,100	2,300	2,200	繰越利益剰余金	
17,400	20,200	22,300	24,600	26,800	残高	

※ 表中の金額は、四捨五入による端数を調整していないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

【資本的収支】

- 収入
 - ・ 企業債 新規発行は見込まない
 - ・ 基金繰入金 公債償還基金からの繰入金(企業債償還の原資)及び競輪事業への出資金原資となる競輪競艇整備基金からの繰入金を計上

- 支出
 - ・ 建設改良費 ボートレースパーク化など、今後の施設整備計画をもとに計上
 - ・ 企業債償還金 令和8年度にすべての企業債の償還を完了
 - ・ 出資金 競輪事業への出資金を計上(ボートレース事業からの事業間振替)
 - ・ 一般会計繰出金 50億円/年度を維持(令和3～5年度実績と同額)

3 親しまれるレース場を目指して

～競輪事業～

指 標		目標値 (令和10年度)	現状値
小倉競輪のイメージ調査結果 ²³			
車券購入 未経験者	収益金が本市財源に 充てられていることを知っている	45%	23% (R5)
	遊びに行きやすい	25%	19% (R5)
	地域や社会に役立っている	70%	68% (R5)
車券購入 経験者	収益金が本市財源に 充てられていることを知っている	70%	64% (R5)
	遊びに行きやすい	80%	73% (R5)
	地域や社会に役立っている ²⁴	90%	93% (R5)
施設利用関係			
北九州メディアドームの年間利用者数(貸館)		100,000人	19,881人 (R4)

～ボートレース事業～

指 標		目標値 (令和10年度)	現状値
ボートレース若松のイメージ調査結果			
舟券購入 未経験者	収益金が本市財源に 充てられていることを知っている	45%	22% (R5)
	遊びに行きやすい	25%	14% (R5)
	地域や社会に役立っている	70%	67% (R5)
舟券購入 経験者	収益金が本市財源に 充てられていることを知っている	70%	60% (R5)
	遊びに行きやすい	80%	77% (R5)
	地域や社会に役立っている	90%	91% (R5)
施設利用関係			
地域貢献エリア等年間利用者数		150,000人	30,978人 (R4) ²⁵

²³ 現状値(R5)について、令和5年10月に実施した北九州市、中間市、遠賀郡、京都郡在住の20代以上の男女を無作為に対象としてインターネット調査にて回答を集計(652名)したもののうち、北九州市在住の者の回答から抽出(540名)。目標値(R10)も同様に北九州市在住の者を対象に設定。(ボートレース事業も同様)

²⁴ 車券購入経験者のうちの「地域や社会に役立っている」の結果については、十分な結果が得られているため、現状維持を目標とする。(ボートレース事業も同様)

²⁵ わかわくらんど、レッドロック、クレカ若松利用者数。

第8章 資産の活用

1 利益剰余金

前期計画期間においては、令和2年度以降の大幅な発売額の増加により、利益処分後の利益剰余金残高が拡大しています。

利益剰余金は預金で保有していますが、資産の有効活用の観点から、運転資金や自然災害等の緊急時の対応に必要と想定される資金、短期・中期の大型施設整備に充当予定のものを除き、資金運用計画を定め、運用を行います。

なお、資金運用においては、地方公営企業法などで定められた、確実かつ有利な方法によることとし、金利の状況や経済情勢など、情報収集を行いながら最適な方法・規模を検討します。

2 競輪競艇整備基金

上記利益剰余金のほか、施設整備や企業債償還に充当するための積立金として競輪競艇整備基金を保有しています。競輪競艇整備基金は、これまで競輪事業の企業債償還に充当してきており、令和8年度の企業債償還完了時点において、約27億円の残高が見込まれます。

企業債の償還完了後は、自然災害等で競輪・ボートレース施設が被災した場合の緊急・優先的な復旧が必要な施設（外向発売所など）の復旧資金や、繰替運用による運用資金として約50億円の保有を想定しており、保有想定額に不足する金額については、後期計画期間に積み増すこととします。

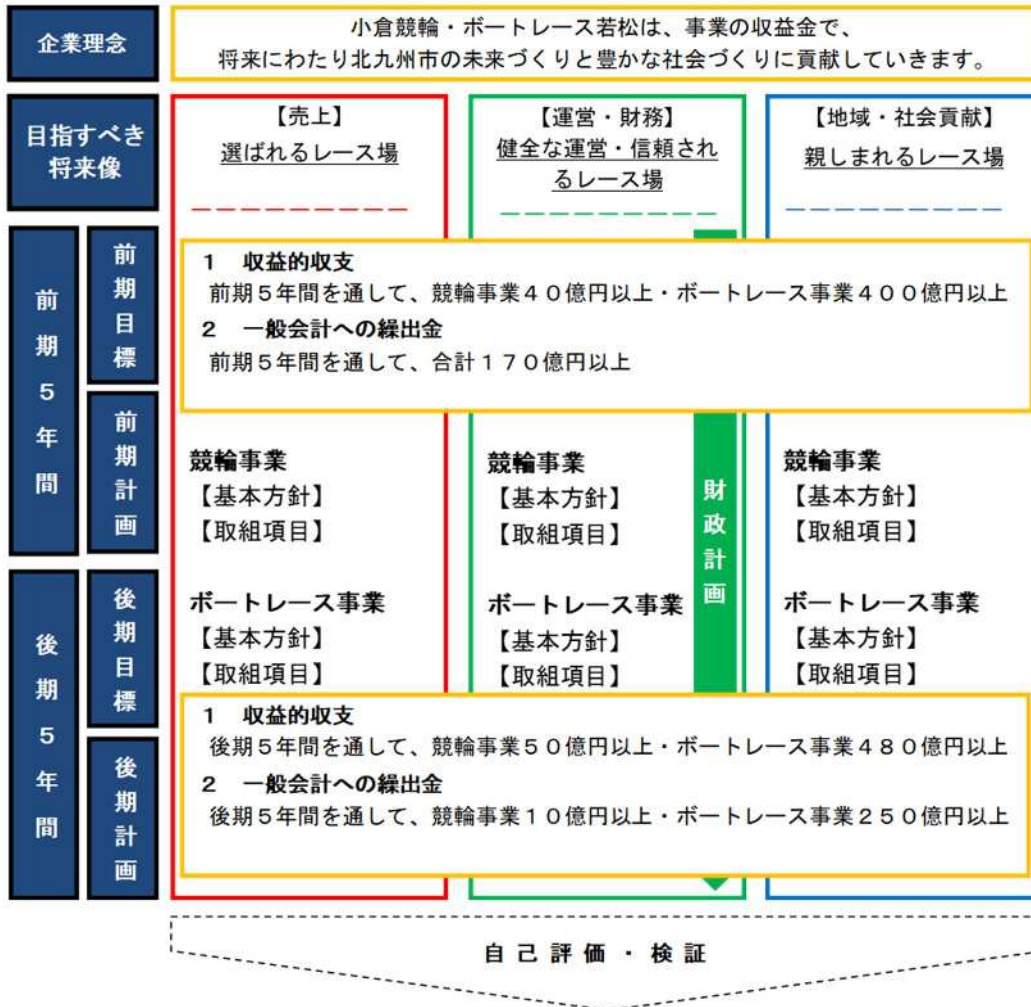
なお、競輪競艇整備基金の一部についても、資産の有効活用の観点で運用を行います。

3 一般会計繰出金

利益剰余金から一般会計への繰出金については、各年度の予算協議により金額を決定します。その上で繰出可能な未処分利益剰余金を有する場合には、企業理念における本市財政への貢献の考え方のもと、将来の繰出金原資として積立てるなど、その保有形態を検討します。

第9章 第2期北九州市公営競技事業経営戦略

第1期（令和元年度～10年度）経営戦略 イメージ図



P D C Aサイクルを機能させるため、第1期北九州市公営競技事業経営戦略（令和元年度～令和10年度）前期目標・計画及び後期目標・計画の自己評価・検証等を踏まえ、令和10年度に第2期北九州市公営競技事業経営戦略（令和11年度～令和20年度）を策定することとします。

第2期北九州市公営競技事業経営戦略（令和11年度～令和20年度）では、第1期同様、公営競技を取り巻く環境はさらに大きく変化していくことが予想されます。時代の変化に適切に対応し、企業理念を実現できるよう、競輪・ボートレース事業に取り組みます。

〈参考〉

本経営戦略の策定に当たり、有識者及び関係者から御意見を頂きました。

～有識者～

(敬称略)

学識経験者	田村 大樹	北九州市立大学 教授 (経済学部長)
学識経験者	日高 京子	北九州市立大学 教授 (基盤教育センター)
公認会計士	藤田 和子	藤田公認会計士事務所 所長

～関係者～

(敬称略)

競輪	大久保 修次	全国競輪施行者協議会事務局次長兼企画部長
ボートレース	川津 大輔	全国モーターボート競走施行者協議会常務理事

北九州市公営競技事業経営戦略
後期計画 (令和6年度 (2024年)
～10年度 (2028年))

発行年月 令和6年 (2024年) 3月

編集・発行 北九州市公営競技局

住所など 〒808-0075 北九州市若松区赤岩町13番1号

TEL 093-791-5010 FAX 093-791-1476